

SR使いがシンクロ次元 に憑依転生する話

白いひと

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

SRWWを使っていた高校生が気付いたらARCVのシンクロ次元に居てユーゴに憑依して居た……

彼は次元戦争や霸王竜を止められるのだろうか……

目次

第1話

第2話

1

4

第1話

「・・・」

俺とはある事故にあいこの世界に転生していた……アニメのキャラクターとして……
「ユーゴ!どこに行ってたの!?!早く帰るわよ!」

少女はそう言っただけでユーゴと呼ばれた少年の腕を引っ張って帰ろうとした

「あ、ああ!わかったよ」

「?……とりあえず家に帰りましょう」

そして家に帰宅し始めた

「なあ、リン」

俺は少女に声をかけた

「どうしたのユーゴ?」

「いや、やっぱなんでもない……」

「?変なユーゴ」

（この世界は遊戯王ARC-Vのシンクロ次元だよな……だったらやるべきことは一つ……アカデミアからリンを守り次元統合を阻止するしかないな……俺が霸王になってしまいう前に……）

ユーゴはそう考えていた

「あ、俺ちよつと部屋でデツキ弄ってくる」

ユーゴはリンにそう言つて席を立つた

「……わかつたわ……夕飯ができたら呼ぶわ」

リンはそう言つた

「確か俺の前世に使つたデツキがここに仕舞つて置いた筈だよな……お、あつた」

ユーゴはそう言つて棚を探り始め、すぐに見つけた

「アカデミアに対抗するにはこのカード達を使うしか無いよな……」

彼はそう呟き手元には上下の色が違うカード……ペンデュラムモンスターカードやSRのサポートカードが握られていた……

「……《緊急同調》《サイクロン》これは2枚ずつあるけどこれはサイクロンだけサイドで緊急同調は抜いて良いなそしてこれを2枚ずつと入れ変えてつと……後は《ヒドウン・ショット》は2枚のうち1枚残してもう1枚は《ツイン・ツイスター》1枚と入れ

替えよつと後はダイスロールバトルは……3枚も合ったのか……これは1枚にして後の二枚は《神の宣告》と《神の警告》にしよう……OMKガムは3枚から1枚にして《ガスタの神裔 ピリカ》を入れて《スターライト・ロード》と《エフエクト・ヴェーラー》を足してつと……こんなもんだな」

そう言つてユーゴはメインデッキとサイドデッキを仕舞い今度はエクストラデッキを取り出し

「エクストラは……《クリアウイング・ファスト・ドラゴン》と《スターダスト・ドラゴン》《ミストウォーム》とかを足してつと……こんなもんだな」

ユーゴがエクストラデッキを完成させると……ドアをノックする音が聞こえた

「ユーゴ? ご飯できたわよ?」

リンはそう言つてドアを開けようとした

「おう……今行く!」

ユーゴはデッキをホルダーに入れ部屋を出た……

To Be Continued

第2話

「クソツ！まさか今日だなんて、早くリンを見つけ出さないと……」

ユーゴは焦っていた……リンがアカデミアのユーリに攫われそうになっていたから
だ

「待ってろよリン！」

ユーゴはそう言ってD・ホイールを加速させた

「さーて、どこに行ったのかな？」

フードをかぶった少年は付近を探っていた

「……」(助けて、ユーゴ……この音はまさかユーゴ!?)

リンは物陰に隠れていた

一方その頃ユーゴはフードの少年を見つけていた

「!?あのフードを冠ってる奴は……あいつがリンを!」

ユーゴはフードの少年目掛けDホイールを加速させドラム缶に立てかけられていた板の上を走りフードの少年の先に回り込んだ

「僕の邪魔をしないでくれるかな?」

フードを冠った少年はそう言った

「お前、アカデミアの人間だろ?俺とデュエルしろよ俺が勝ったらリンのことは諦めろ」
ユーゴはそう言った

「!?どうしてアカデミアの事を……まあ良いよ、僕に挑んだ事を後悔させてあげる!」
「デュエル!」

「先行は僕が貰うよ!僕は《ローンファイア・ブロッサム》を通常召喚!その効果により《ローンファイア・ブロッサム》自身をリリースしデッキから同盟モンスターを特殊召喚するよ!この効果には名称ターナーは存在しないからもう一度使わせてもらうよ!今度はデッキから《捕食植物オfris・スコピオ》を特殊召喚するよ!《捕食植物オfris・スコピオ》の効果により手札からモンスターカード1枚を捨ててデッキから《捕食植物ダーリング・コブラ》を特殊召喚するよ!その効果によりデッキから融合を

加えるよ！そしてそのまま発動！フィールドの《ダーリング・コブラ》と《オフリス・スコーピオ》で融合召喚！現れる《捕食植物アンブロメリドウス》！《アンブロメリドウス》の融合召喚成功時にデッキからプレデター魔法・罠を加えさせてもらうよ！僕が加えるのは《捕食計画》！僕はリバースカードを3枚伏せターンエンド！」手札5↓2
 フードの少年はターンエンド宣言をした

「やつぱり融合次元の人間か……俺のターン、ドロー！」手札5↓6

「俺は《S R ベイゴマックス》を手札から特殊召喚！特殊召喚に成功した時にベイゴマックスは効果が使えるがチェーンはあるか？」

手札6↓5

「無いよ」

「それならベイゴマックスの効果発動！」《S R ベイゴマックス》の召喚、特殊召喚成功

時俺はデッキからベイゴマックス以外のS R モンスターを手札に加える！俺は

《S R タケトンボーグ》を手札に加えそのまま特殊召喚！そのまま《S R タケトン

ボーグ》をリリースすることにより俺はデッキから《S R 赤目のダイス》を特殊召喚

！《S R 赤目のダイス》の効果！このカード以外のS Rのレベルを1〜6の好きな値

に変更する！俺は《S R ベイゴマックス》のレベルを6に変更する！

「じゃあここかな！リバーストラップ発動！《捕食計画》！まずは発動コストでデッキか

ら《捕食植物コーデイセツプス》を墓地に送らせてもらおうよそして効果によりフィールドのモンスター全てに捕食カウンターを1つ置かせてもらおうよ！このカウンターが置かれてるモンスターのレベルは全て1になるから続けて展開できるかなあ？」

「……俺は手札から《S R 電々大公》を通常召喚！そしてレベル1となった《S R

ベイゴマックス》にレベル3の《S R 電々大公》をチューニング！幾千の顔を持つ迷

宮の影よ！その鋭き刃で混沌の闇を斬り裂け！シンクロ召喚！レベル4！《H S R 快

刀乱破ズール》！続けて《ズール》と《S R 赤目のダイス》をチューニング！双翼い

だく、煌めくボディ！その翼で天空に跳ね上がれ！シンクロ召喚！現れろ！レベル5

《H S R ！

そして墓地の《電々大公》を除外することにより手札か墓地のチューナーのS Rを特

殊召喚できる！その効果により再び《赤目のダイス》を特殊召喚！再び効果発動！その

効果により《マツハゴイータ》のレベルを2に変更する！

「レベルを下げる？何を考えてるんだい？」

「まあ見てなって！そのままレベル2となった《マツハゴイータ》にレベル1《赤目の

ダイス》でチューニング！シンクロ召喚！《H S R コルク10》！シンクロ召喚成

功時効果によりシンクロ召喚の素材になった二体を墓地から特殊召喚させてもらおう！

赤目のダイスの効果によりマツハゴイータのレベルを今度こそ6にさせて貰うぜ！」
「ツ……さつきより不味いかも」

ユーリが先程捕食計画を使う前と同じ展開になっていたのである……

「俺は《マツハゴイータ》に《赤目のダイス》をチューニング！輝く翼神速となつて天地を照らせ！シンクロ召喚！レベル7現れよ《クリアウイング・ファスト・ドラゴン》！」
「君もドラゴンがエースなんだね！まあ僕のドラゴンにはかなわないと思うけどね」

この時ユーリはファストドラゴンのカードを確認していないかった……

「使うならそろそろかな？まずはリバースカードオープン《メタバース》！その効果によりデツキからフィールド魔法を発動させてもらうよ！発動するのは《闇黒世界―シャドウ・デイストピア》このカードの永続効果によりお互いのフィールドのモンスターは全て闇属性になるよ！発動後に何かあるかい？」

「…… 続けてくれ」

「じゃあ僕のドラゴンを見せてあげるよ！僕は手札一枚を捨てて速攻魔法発動《超融合》！その効果によりお互いのフィールドのモンスターを素材に融合召喚を行う！このカードの発動に対して魔法・罠・モンスターの効果は発動できない。からこのまま処理させて貰うよ！魅惑の香りで虫を誘う二輪の美しき花よ！今一つとなりて、その花卉の

奥の地獄から新たな脅威を生み出せ！融合召喚！現れる、餓えた牙持つ毒龍！レベル8
 ！スターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン！」手札2→1

「これで伏せカードは無くなった！俺は《S R ビーダマシーン》と《S R ドミノバタ
 フライ》でペンデュラムスケールをセツティング！これにより風属性のレベル2〜7の
 モンスターを同時に召喚可能！神速の翼で新たな可能性を紡ぎ出せ！ペンデュラム召
 喚！手札から《S R カールターボ》さらにエクストラデッキから甦れ！《クリアウイ
 ング・ファスト・ドラゴン》！」

「な、なんだ!?!何が起きているんだ!?!」

ユーリは慌て始めた……自分の知らない召喚法で墓地に行っているはずのモンス
 ターがエクストラデッキから蘇ったからだ

「俺は更に《マツハゴイータ》に《カールターボ》をチューニング！神聖なる光蓄えし
 翼煌かせ、その輝きで敵を討て！ シンクロ召喚！ 出でよ！ 《クリスタルウイング・
 シンクロ・ドラゴン》！」

「《クリアウイング・ファスト・ドラゴン》の効果発動！相手のエクストラから特殊召喚
 されたモンスターの攻撃力を0にし効果を無効化する！バトルフェイズ！《クリスタル
 ウイング・シンクロ・ドラゴン》で《スターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン》に
 攻撃！烈風のクリスタロス・エッジ！」

「くっ!」 LP4000—3000 || 1000
???

「でも《スターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン》の効果!融合召喚で出されたこのモンスターが破壊された時相手フィールドの特殊召喚されたモンスターを全て破壊する!」

フードの少年は効果を発動宣言した

「チエーンして《クリスタルウィング》の効果を発動!モンスター効果を無効にし破壊する!」

「なんだって!?!これじゃあ、僕の負け……?」

「……俺は《クリアウィング・ファスト・ドラゴン》で攻撃!旋風のアリーエッジ!」

「ウワアアアアア!」 LP1000—2500 || 1500 H u g o W I N

「嘘だ……この僕が負けるなんて……」

フードの少年がそう言うのと少年のデュエルディスクが光り出した……

「何だ!?!」

ユーゴは急に光ったので驚いた

「嫌だ……負けたまま帰るなんて……この僕が任務に失敗しただなんて!」

「おい!」

あたりが発光しフードの少年はどこかに消えた

「……………逃げたのか？……………リン！無事か!？」

「……………ええ、ユーゴ、助けてくれてありがとう……………」

リンはそう行つて安心したのか気を失った

「……………間に合つてよかつた」